

ソフトウェア構成管理パッケージ「ReCA」により 数万件のソフトウェア資産を活用した ソフトウェア開発環境の実現

いま生命保険業界では、厳しい経営環境を勝ち抜くための業務プロセスの見直しと、事業コストの圧縮が急務の課題となっています。そのため、企業戦略の要となる情報システム構築でも、低コストとスピード、高いプログラム品質が、ともに求められる時代となってきました。

そこで日本生命保険相互会社（以下、日本生命）とニッセイ情報テクノロジー株式会社（以下、NISSAY IT）は、システム開発環境におけるコストメリットと開発スピードの向上を目的に、日立のソフトウェア構成管理パッケージ「ReCA」を導入。500名以上ものプログラム開発者が関わるソフトウェア構成管理を、低コストで効率的、セキュアに実行できるインフラを構築しました。

すべての機能をWebアプリケーションとして実現するReCA

「ニッセイ」の愛称で知られる日本生命は、生命保険、損害保険の両分野にわたる最高の総合保険サービスの提供を目的に、常に先進的な商品・サービスを開発。より身近で利便性の高いサービスネットワークの拡充も推進し、一段と強固な財務基盤・経営基盤の確立に力を注いでいます。

その経営戦略に基づいたIT化の推進を一手に担っているのが、ニッセイグループの

IT戦略会社として日本生命の情報システム部門とニッセイコンピュータのシステム開発部門を統合し、1999年に誕生したNISSAY IT。このたび同社では、日本生命向けWebシステムの開発環境において、多種多様なソフトウェア資産をWebサーバを利用して効率よく管理できる、日立のソフトウェアパッケージ「ReCA」を導入しました。

「日本生命のIT戦略では、コストダウンと効率化、スピードアップが重要な課題となっています。しかし、ソフトウェア開発の規模が拡大するにつれ、管理対象となる

プログラムや開発メンバーの数は増大する一方です。またソフトウェアは、不具合の修正や機能追加、システム統合などのさまざまな要因によって、継続的に多くの変更が必要とされ、その間の変更管理やバージョン管理といった「構成管理」のよしあしがソフトウェア資産全体の価値を規定してしまいます。

そこで、500名以上もの担当者が関わるWebシステムの構成管理業務において、こうした課題を解決するツールを探していたところ、数あるパッケージの中でReCAが最も適していると判断しました。」

（ニッセイ情報テクノロジー株式会社
フォーラム21推進部 オープンシステム
開発ブロック[大阪]
スペシャリストエンジニア 竹之内 均氏）

NISSAY ITでは、メインフレームやUNIX、現行のWebプログラムの構成管理を、それぞれ作り込みのツールやC/S版のソフトウェアパッケージで行っていました。しかし、今後のWebシステム開発においてこれ以上、クライアント1台1台の管理負荷が加わるのは効率的ではないと判断。



ReCAならWebブラウザを備えたどのPCからもサーバにアクセスできる

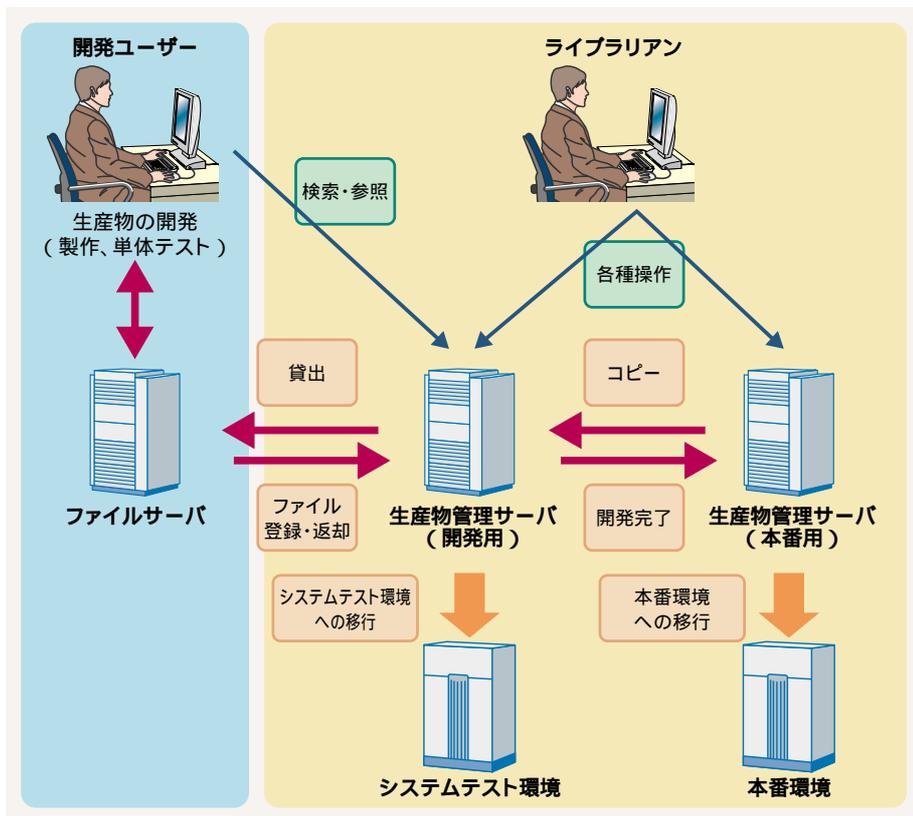


図 ReCAを適用した生産物管理の流れ



ニッセイ情報テクノロジー株式会社
フォーラム21推進部
オープンシステム開発ブロック 大阪]
スペシャリストエンジニア
竹之内 均氏



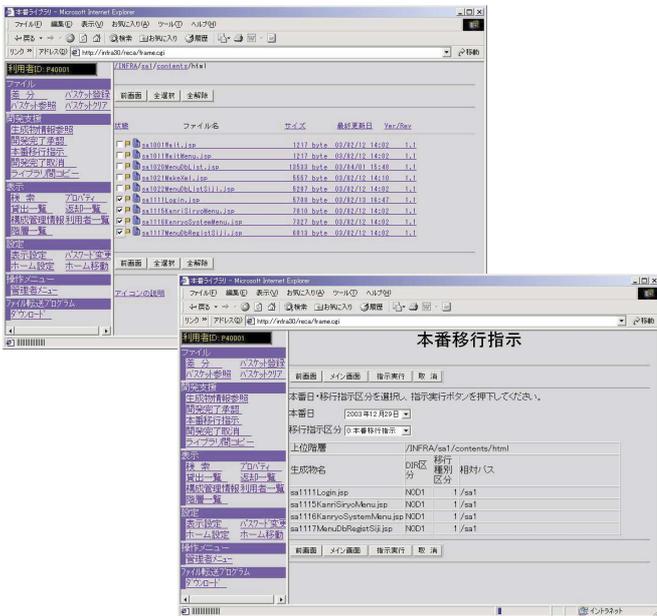
ニッセイ情報テクノロジー株式会社
フォーラム21推進部
オープンシステム開発ブロック 大阪]
安田 繁治氏

USER PROFILE 日本生命保険相互会社

【本社】 大阪市中央区今橋3 5 12
【設立】 明治22年
【総資産額】 45兆2,149億円(2001年度末)
【総従業員数】 70,981名
(うち内勤職員11,024名)
(2001年3月現在)
【ホームページ】 <http://www.nissay.co.jp/>
【事業概要】 生命保険業(生命保険業免許に基づく保険の引受け、資産の運用、付随業務)

USER PROFILE ニッセイ情報テクノロジー株式会社

【本社】 東京都大田区蒲田5-37-1
ニッセイアロマスクエア
【設立】 1999年7月
【資本金】 40億円
【従業員数】 1,219名(2002年4月)
【ホームページ】 <http://www.nissay-it.co.jp/index.html>
【事業概要】 保険・金融サービス、介護・医療サービス、システムインテグレーション、ネットワークサービス、アウトソーシングなど



ユーザーアプリケーションともシームレスに連携できるReCAの画面例

すべての機能をWebアプリケーションとして実現し、イントラネット環境さえあれば管理負荷の心配がいらぬReCAに注目したのです。

ライブラリアンの設置でプログラムの漏えいと破壊を防止

NISSAY ITでは、開発用と本番用の生産物管理サーバ(ReCAサーバ)を中心に、イントラネットで結ばれた500名以上のソフトウェア開発担当者が、日々Webプログラムの開発業務をこなしています。

「業務の流れとしては、まず「ライブラリ

アン」と呼ばれる構成管理担当者が、修正対象の生産物をワークエリアであるファイルサーバへ抜き出し、それに対して個々の担当者が開発やテスト業務を行います。そこで一定レベルの修正が施されると、ライブラリアンが再びReCAサーバへと格納し、さまざまなシステムテストを経た後、本番ライブラリに移行する形となります。

この間、ReCAサーバ

に格納された生産物の出し入れをライブラリアンに限定することで、開発プログラムのセキュリティ確保や、人為ミスによるプログラム破壊を避けられるように工夫しました」

(ニッセイ情報テクノロジー株式会社
フォーラム21推進部 オープンシステム
開発ブロック 大阪]安田繁治氏)

NISSAY ITでは今回、この生産物のセキュリティプログラムを独自に開発。日立では、その機能とReCAとのシームレスなインタフェースを実現する機能を提供し、製品版にも反映させました。この「ユーザ

一機能の組み込みインタフェース機能」により、お客さま独自の業務がReCA上からも使えるようになり、今まで以上にフレキシブルな操作性を実現しています。

「こうした柔軟なサポートをパッケージソフトでも実現してくれるところに、日立さんのサポート力を強く感じました。また、構築期間が約半年で済んだうえ、Web版にもかかわらず、従来から使っているC/S版の構成管理ツールと互角の働きをしていている点でも、ReCAを高く評価しています」

(竹之内氏)

現在、ReCAに登録されているプログラム数は約1万本。数年以内にはこれが6万本以上になると予想されており、その修正作業や影響調査を行うために、個々の担当者がReCAに直接、生産物としてのプログラムを見に行くケースが増えてくるということです。そのときこそ、「500名以上の開発者が、Web上から自由にプログラムを見ることができるReCAのメリットが最大限に生かされてくる」と竹之内氏は強調します。

ReCAの導入により、管理負荷を大幅に軽減しながら、効率的なソフトウェア開発支援・構成管理環境の構築に成功した日本生命とNISSAY IT。その絶え間ないIT戦略の進化を、これからも日立は力強くサポートしてまいります。

このシステムは「株式会社 日立ハイコス」の協力を得て構築されました。

お問い合わせ先

(株)日立製作所 情報・通信グループ 金融第二事業部 第一本部 第一部 担当:水野
TEL(06)6271-5579 FAX(06)6271-5511
E-mail: mizuno-y@itg.hitachi.co.jp